ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声 人権作文シリーズ【No.43】

◆人権標語
「自分の心を伝えあい、広がるなかま　楽しい学校」　菊陽中部小学校５年　井垣（いがき）　美結（みゆ）
「どうしたの　その言葉から　始めよう」　菊陽西小学校　６年　桑原（くわはら）　涼佳（すずか）

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

「八朔まつりに行ったよ」

なかよし園　よしかわ　るの（6歳）

ママと妹と私とパパと、矢部ばあばと八朔まつりに行ったよ。

ゆかたを着てうれしかった。くまもんとあくしゅをしたよ。手がふわふわしたよ。妹は2回、ポテトを食べたよ。私はわたあめとりんごあめを食べたよ。りんごあめが甘くてかたかったよ。

木の作り物があって、ティラノサウルスは大きくてびっくりしたよ。妹はかたまっていたよ。楽しかったから、また行きたいなぁと思った。

◇絵を描くことが大好きな琉希（るの）さんは、休みの日にいとこと遊んだ絵や家族の絵を描いて、いろいろなことを話してくれます。矢部のおばあちゃんの家に行くのも前日から楽しみにしていました。八朔まつりで、くまモンと握手したことがとてもうれしかったようで最初にくまモンを描いていました。

ご存知ですか人権擁護委員

菊陽町人権擁護委員　江藤由紀子

菊陽町には8人の委員がいて、▼「人権の大切さについて正しい認識をもてるような」啓発活動▼「地域の皆さんから相談を受け問題が解決するようお手伝いをする」相談事業の2つを柱にみんなで頑張っています。

活動の拠点は、熊本地方法務局阿蘇大津支局の中にあり、三部会（子ども部・男女共同参画部・社会福祉部）で活動しています。例えば、老健施設の夏祭りやすぎなみフェスタでは、人権に関するしおり作りや塗り絵、紙芝居などをしています。毎年大勢の子どもたちでにぎやかです。

無料人権相談

▼日時　12月3日（月）午前10時～午後3時
▼場所　西部町民センター

▲地域に根ざした啓発活動（老人福祉センター）

部落差別をはじめあらゆるさべつをなくす

菊陽町人権子ども集会

～ 差別をなくす「なかまの輪」を広げよう ～

入場無料

■日時　12月1日（土）午前9時～正午
■場所　菊陽町民体育館

プログラム

司会（菊陽中）
- 開　　会（西小）
- 実行委員長あいさつ
- 歌　　「語り合おう」（西小）
- 目的発表（武北小）
- 発　　表（武中、北小、中部小、南小）
- 集会宣言（武小）
- 閉　　会（西小）

■主催　菊陽町　菊陽町教育委員会
　　菊陽町人権教育推進協議会
■実行委員　中学校生徒会執行部、各小学校代表者

いじめや差別はみんなが心を一つにして本気でなくそうと思えばなくなります。ぜひ、この集会に参加してください。みんなで集まって、今菊陽町で起こっていることを見つめ直しましょう。そしてこれからの菊陽町が誰にとっても過ごしやすい町となるように話し合って考えを深めあいましょう。

菊陽町人権子ども集会
実行委員長　松本　駿

▲私たちが企画準備

菊陽人りさーち

赤星（あかほし）　明日翔（あすか）さん
（９歳・境の松）

- 趣味
  読書、お絵かき
- 将来の夢
  ファッションデザイナー
- 自慢できること
  都道府県を全部言えること
- 今一番やりたいこと
  お絵かきをしたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先（昼間）」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注）掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など２人１組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

赤星（あかほし）　陽向（ひなた）さん
（７歳・境の松）

- 趣味
  ブランコ
- 将来の夢
  画家
- 自慢できること
  掛け算の九九を覚えたこと
- 今一番やりたいこと
  ディズニーランドにまた行きたい！

きくよう文芸

菊陽句会報

平凡に生きて米寿や白芙蓉　坂本百合子
紫苑（しおん）咲くさらに色濃き野草園　田中　郁子
秋刀魚（さんま）焼く遠く住む子は息災（そくさい）か　井　子文
最終章にいよいよ突入敬老日　財津　早雪
秋風のふと寂（さび）しさを連れて来る　原野レイ子
城壁の影を濃くして星月夜　力　幸子
秋一日静かに夫の留守暮るる　寺尾千代子
虫の声地球は回るオルゴール　髙橋　孝子
江ノ電の窓に溢れる秋の海　堀川　妙子
いかづちに身体（からだ）も心もちぢまりぬ　福田　貴子
戦争草丈のたわめて夏の果　佐藤　節
母の忌を知りて鳴くかに法師蝉　吉野　早苗

短歌会

朝露は葉先に宿り稲の穂に静かに落ちてきらり光りぬ　今村　貞子
朝露の浮きたるキャベツを去年より半年早く収穫始む　梅田　國雄
せせらぎはきらめき立ちて夕映えの空に一羽の烏が鳴けり　河北　幸一
朝々に莟み膨らむこの花の一夜開くを今かと待ちぬ　菊川あさみ
夕風のいつしか暑さの和らぎて散らす桜葉黄に色付けり　佐藤せい子
それぞれに病院へ行くを言い合いてボランティアに励む友と別れぬ　下田　久子
実らずに刈り取られゆく朝の田の若き稲穂に白露の玉　中村トシエ
ほほゑみを浮かべて眠るみどり児を手に手を添へて吾が抱きたり　山川　カヅ
乳白に暮るる阿蘇谷夏果つる　井上久美子
白川の面にくだける夏の月　宮川ユキエ
一人居の無聊（ぶりょう）なぐさむ金魚鉢　日髙　妙子
抱く嬰（やや）の拳（こぶし）ほほえみ稲の花　曽我　育代
松の木に彩（いろど）り添える凌霄花（ゥうぜんか）　曽我トモ子
色付きし田の面（も）に千の露の玉　紫藤　祥子
かなかなや祖母の唄ひしわらべ歌　村上　朋子
赤蜻蛉（とんぼ）昭和は夢か招魂碑　野口　令史
今日だけは素直にならう敬老日　松橋　強
屋久島の辣韮（らっきょう）のような梅雨の雨　佐藤　健
蜩（ひぐらし）や駅前通り喫茶店　佐藤　澄世